

《長崎新聞 平成26年10月27日朝刊より転載》

【質問】高齢者向けの肺炎球菌ワクチンが定期接種になったと聞きました。詳しく教えてください。

(71歳、女性)

肺炎球菌の予防ワクチン

【回答】肺炎球菌は、日常的に人の喉や気管にいたる細菌です。高齢や病気などの理由で免疫力が落ちると肺炎を引き起こし、死亡や重篤な後遺症を残す敗血症、髄膜炎などの状態へと移行する可能性も高いのです。肺炎はわが国の死亡原因の第3位で、肺炎球菌はその原因の第1位です。

10月1日から「23価肺炎球菌莖膜(きょうまく)ポリサッカライドワクチン」を定期接種することが決まりました。93種類ある肺炎球菌のうち、人に病原性を持ち、感染する危険の高い23種類に対応しています。接種することで感染の80%に対応できるとみられます。

本年度から始まった定期接種は、当該年度(4月2日)から翌年(3月31日)に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる人と、101歳以上

(本年度のみ)の人が対象です。60歳から65歳未満の人で、心臓、腎臓、呼吸器の病気などにより日常生活が極度に制限されたりする人も対象となります。ただし、過去にこのワクチンを接種した人は対象外です。

定期接種は2018年度までの予定です。本年度は対象外でも、今後5年の間に該当年齢に達する人は公費負担で接種できます。しかし、当該年度以外では任意接種、つまり全額自己負担になります。

今月から定期接種化



接種回数は1回で、皮下か、筋肉に注射します。効果は5年以上持続するとい

われており、インフルエンザワクチンのように毎年接種する必要はありません。副反応として多く見られるのは注射部位の痛み、腫れ、発赤です。全身倦怠(けんたい)感や発熱、筋肉痛などが出ることもあります。が、通常3日以内に治ま

高齢者対象に5年間

ます。まれに重篤な副反応としてアナフィラキシー様反応、血小板減少症、ギランバレー症候群が報告されています。5年以内の間違って2回目を接種すると、これらの副反応が強くなる可能性があります。

これからの時期はインフルエンザワクチンの接種も行われます。医師の判断で同じ日の接種も可能ですので相談してみてください。

定期接種となり、安い金額で受けることが可能になりましたが、その額や接種場所は自治体により異なります。お住まいの市町に確認してください。

健康に自信がある方でも5年先までを考え、定期接種の当該年度に受けることをお勧めします。

(県医師会)

質問をどうぞ

この欄では県医師会が医療制度全般の質問にお答えします。質問希望の方は知りたい内容を分かりやすくまとめ、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「医療制度Q&A」係までお送りください。不明な点をお聞きする場合がありますので住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記してください。なお、直接本人への回答はいたしません。